

リハビリテーション学部 理学療法学科 2020年度活動報告

I. 理学療法学科の特色と養成人材像

理学療法学科は、今後期待される本邦における健康寿命の延伸が為されることにより、理学療法士の重要性は年々高まっており、地域医療や在宅医療の推進において重要な役割を担うことから、理論に基づいた高い技術を提供することに加え、新しい価値を創造できる能力、関連分野を融合したサービスを展開できる能力、生活の質(Quality of Life: QOL)の維持・向上に貢献できる能力、実務リーダーとして組織をマネジメントできる能力を有する実務リーダーとして新たな価値やサービスを展開できる理学療法士を育成する。

II. 理学療法学科専任教員

大学における研究実績が豊富な理論家教員に加えて、保健医療の現場で活躍する実務家教員が4割以上占め、広い視野で発想できる人材育成を行う体制を整えた。

五十嵐広明：教授
江幡真史：教授
陶山哲夫：教授(学長)
田畑 稔：教授(学科長)
照井直人：教授
沼田憲治：教授
宮地恵美子：教授
鳥居昭久：准教授(教務部長)
大矢暢久：講師
加藤剛平：講師
五嶋裕子：講師
杉山真理：講師(1年生2クラス副担任)
武井圭一：講師
富田義人：講師

森本晃司：講師(1年生1クラス副担任)
有菌暢子：助教
有本邦洋：助教(1年生1クラス担任)
重國宏次：助教(1年生2クラス担任)

III. 理学療法学科活動

- 2020年4月1日、理学療法学科1期生として74名が入学したが、2020年4月7日緊急事態宣言の発出に伴い、2020年前期講義開始が6月1日以降となったため、1期生は、新学期早々自宅待機となった。
- 2020年5月7日、オンラインによる新入生ガイダンスを実施し2020年前期講義は、7月末までオンライン講義による実施となり、学生支援として各クラス担任、副担任に加えて、少人数制の学修アドバイザー制を導入し、オンラインによる学生サポート体制を確立した。
- 2020年6月22日より、自習目的の学生登校が可能となり、パソコンの貸し出しとオンライン講義の学内視聴が可能となる。加えて、1年生の臨地実務実習について、実施場所の検討(実習施設or実習施設+学内or学内のみ)に入る。
- 2020年8月1日、対面による1期生オリエンテーションが開催され、8月3日より、月曜日と金曜日をオンライン講義日とし、火曜日から木曜日を対面講義日とし、混雑時の電車通学を回避するため講義開始を2限として、対面講義が開始される。
- 2020年9月17日、2020年後期学生オリエンテーションを実施し、9月23日より後期科目を開講し、実習科目については、科目担当教員の他に実習補助を行う常勤教員を配置し、



写真：対面オリエンテーションの様子



写真：臨地実務実習 事前エンターションの様子

実習科目の充実を図った。

6. 2020年10月15日, 1年生臨地実務実習(見学実習)に対して, 実習生に望まれるワクチン接種に関するオリエンテーションを実施した。また, 学修方法に不安を持つ学生に対して学修サポートレクチャーを後日開催することとした。
7. 2020年11月16日, 1年生臨地実務実習(見学実習)を学内実施する検討を開始し, 少人数制(15名程度)かつ3名グループによる実施案が提案された。
8. 2021年1月9日, 16日, 1年生臨地実務実習(見学実習)について, 実習前オリエンテーションを実施し, 学生の所作, 身なり等のオリエンテーションとユニフォームの確認を実施した。
9. 2021年2月15日より2月19日まで, 1年生臨地実務実習(見学実習)が学内にて実施され, 1期生が理学療法士教員の下で, 疾患の理解や理学療法士としての考え方および対応方法等のシミュレーションを行いながらアクティブラーニングやグループワーク, 課題作成へ取り組んだ。
10. 2021年2月27日, 第1回東京保健医療専門職大学学術大会が開催され, 理学療法学科専任教員, 田畑稔, 鳥居昭久, 江幡真史による学術講演が行われた。

IV. 臨地実務実習(学内見学実習) 報告

一期生の臨地実務実習(学内見学実習)は, 2021年2月15日から2月19日までの5日間, 1日8時間, 5つのテーマを設定し, 運動器疾患や神経系疾患について, 1テーマあたり理学療法士教員を2名ずつ配置して, 理学療法士の観点から, 疾患の概要説明, デモンストレーション, 着目点, 当該疾患への理学療法士としての対応などについて説明を行い, 学生には, 現状で考えられること対応出来ることなどを3人グループでグループワークして課題作成することを主眼に計画し実施した。

新型コロナウイルス感染拡大が収束されれば, 本来, 学外の臨地実習施設にて見学実習を実施する予定であり学生も期待が高まっていたが, 臨床施設が併設されない本学において, 学内で患者さんのシミュレーション実習を行うために, 幾度も理学療法士教員によるブリーフィングを重ねた。

専門職大学は, 実務家教員の配置比率が一般大学より多くなっており, 開学1年目より臨床実務実習指導者として10名以上確保出来ることも幸いし, 手厚い臨地実務実習指導体制が構築され, 実習初日から理学療法士教員の熱意が通じ, 学生のグループワークやアクティブラーニングが見事に進捗し, 従来座学では, 垣間見る事が出来なかった学生皆さんの積極的学修行動に接することができた。



写真：臨地実務実習の様子

受講した学生よると今回の臨地実務実習は1年生にとって大変な内容ではあるけれど、これまでに理学療法士とここまで時間を掛けて話し合ったことがなく、しかも実習しながら学修が出来るのでとても役に立つが、その一方でオンライン授業や対面授業がとても苦手で、この実習を通じてようやく学修方法がよくわかったという意見もあった。

総じて、一期生は、既にアクティブラーニングやグループワークを行う素養を有しており、今後の講義や実習の展開において、教職員側が多様かつ多面的な方法論を繰り広げることが可能であることが把握できた臨地実務実習であった。

V. 理学療法学科教員の活動 (2020年4月～12月)

○五十嵐広明

【社会貢献活動】

- ・専門分野と関係がない横浜市の「まちづくり」の公的委員
- ・横浜市建築協定連絡協議会 幹事

○江幡真史

【論文】

- ・江幡真史. 「1970年～2000年におけるジャスコ株式会社の多角化経営の展開—経営方針の変遷と子会社群の動態的变化の分析—」(査読付き) 『経営学研究論集』第53号, 明治大学大学院. 令和2年9月11日.



写真：臨地実務実習の様子

和2年9月11日.

【社会貢献活動】

- ・公益社団法人 経済同友会 幹事
- ・公益社団法人 経済同友会 産業懇談会代表世話人
- ・公益社団法人 経済同友会 財務委員会副委員長
- ・第5期練馬区地域包括支援センター運営協議会委員 (区民委員)
- ・第5期練馬区地域密着型サービス運営委員会委員 (区民委員)

○陶山哲夫

【論文】

- ・陶山哲夫, 中森邦男, 安岡由恵. TOKYO2020がリハビリテーション診療に及ぼす変革. 日整会誌. 94: 220-228. 2020年5月1日
- ・陶山哲夫, 三井利仁, 安岡由恵, 中村健. パラスリートの未来のために. Journal of CLINICAL REHABILITATION. Vo-29, No7: 620-628, 2020年7月.
- ・陶山哲夫, 藤原清香, 菊地みほ. 東京2020パラリンピックを迎えて—障がい者スポーツのこれからと発展—. Jpn J Rehabil Med: Vol 57: 486-91. 2020年11月18日.

【学会報告】

- ・陶山哲夫. 東京パラリンピックにおける整形外科医の役割. 日本整形外科学会, シンポジウム. 2020年7月.

【社会貢献活動】

- ・日本ヒューマンケア・ネットワーク学会・理事長
- ・日本障害者スポーツ学会・顧問
- ・日本脊髄障害医学会・名誉会員
- ・日本臨床スポーツ医学会・名誉会員
- ・日本義肢装具学会・名誉会員
- ・日本障がい者スポーツ協会・理事, 医学委員長
- ・日本アンチ・ドーピング機構・評議員

○田畑 稔

【論文】

- ・田畑 稔. 有酸素運動トレーニングの基礎理論. デイサースリア臨床研究, 10 (1), 40-49, 2020年12月.

【学会発表】

- ・N. Hamazaki, K. Kamiya, k. Nozaki, T. Ichikawa, M. Yamashita, S. Uchida, M. Tabata, E. Maekawa, M. Yamaoka-Tojo, A. Matsunaga. Correlation between respiratory muscle weakness and frailty status as risk markers for prognosis in patients with cardiovascular disease. European Heart Journal 41 (Supplement 1) 3106 2020年8月

【社会貢献活動】

- ・日本理学療法士学会 研究安全・学術倫理委員会 倫理審査部会審査員
- ・日本理学療法士学会 第6回日本心管理理学療法学会学術大会長
- ・日本理学療法士協会 ガイドライン・用語策定委員会 心血管作成班班員
- ・日本理学療法士学会 編集委員会 査読委員
- ・日本心管理理学療法学会 運営幹事
- ・日本心臓リハビリテーション学会 評議員
- ・日本心臓リハビリテーション学会 利益相反委員会 委員

○照井直人

【著書】

- ・照井直人. 第5章環器系の力学. 人体の力学. 松

井剛一編著. pp145-165, コロナ社, 東京, 2020.

○宮地恵美子

【報告】

宮田雅之, 宮地恵美子. 専門職大学コンソーシアムの設立(事務局プレスリリース). https://www.mext.go.jp/content/20200908-mxt_senmon01-00307_01.pdf

○鳥居昭久

【著書】

- ・北川薫, 府内勇希, 鳥居昭久・他. 運動とスポーツの生理学改訂第4版 市村出版. 2020年10月.
- ・鶴見隆正, 辻下守弘, 鳥居昭久・他: 標準理学療法学・臨床実習とケーススタディ. 医学書院. 2020年12月.

【社会貢献活動】

- ・日本障がい者スポーツ協会トレーナー部会委員
- ・日本パラリンピック委員会医科学情報サポートトレーナー支援領域委員
- ・日本理学療法士協会2020東京オリパラ対策小委員会委員
- ・愛知県アスレティックトレーナー連絡協議会理事
- ・名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会トレーナー部会委員
- ・愛知県2026年アジア競技大会等選手強化事業アスリート強化専門委員会委員
- ・愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科非常勤講師(健康科学, リハビリテーション倫理, 理学療法特論スポーツ理学療法)
- ・名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻非常勤講師(スポーツ理学療法)
- ・北里大学保健衛生学部理学療法学専攻非常勤講師(整形外科系理学療法学実習)
- ・愛知学院大学心身科学部非常勤講師(スポーツリハビリテーション演習)
- ・東京都障がい者スポーツ協会中級指導員講習会

講師(身体の仕組みと体力づくり)

- ・名古屋市障がい者スポーツ協会中級指導員講習会講師(障がい者スポーツと理学療法, トレーニングの基礎)
- ・日本障がい者スポーツ協会障がい者スポーツトレーナースキルアップ研修会講師(アライメント評価)

○大矢暢久

【論文】

大矢暢久. 運動器障害に対する物理療法の臨床実践～超音波画像診断装置による効果判定を中心に～. 物理療法科学, 27:12-18, 2020年8月.

【社会貢献活動】

- ・日本理学療法士学会 物理療法部門 相談役

○加藤剛平

【論文】

- ・Gohei Kato, Tomoyuki Arai, Yasuhiro Morita, Hiroaki Fujita. Association of Built Environments with Frequency of Going Outdoors Among Older Community-Dwelling Adults in Japan. Journal of aging and physical activity. 1-7. 2020年4月.
- ・加藤剛平, 橋 智弘, 豊永敏宏, 岩本幸英. 筋発揮張力スロー法によるスクワット運動の継続が中高年勤労者の主観的な健康観に与える影響. 日本職業・災害医学会会誌, 68(5), 315-320, 2020年9月.
- ・加藤剛平, 倉地洋輔. 予防医療における費用対効果. Precision medicine 3(10) 32-34 2020年9月.
- ・加藤剛平, 倉地洋輔. 地域在住前期高齢者に対する運動プログラムの転倒予防に焦点をあてた費用対効果分析. 理学療法学 47(5) 420-430 2020年10月.
- ・加藤剛平, 橋 智弘, 江口まり, 西村ますみ, 林 寛子, 安永 恵, 豊永敏宏, 岩本幸英. 急性期病院から自宅へ退院する脳卒中患者の治療就労両立支援の現状と課題. 日本職業・災害医学

会誌. 681(6), 361-365. 2020年12月.

【社会貢献活動】

- ・Medicine® Academic Editor
- ・第6回日本職業・災害医学会 奨励賞 受賞. 第67巻5号掲載「中高年勤労者における1年間の動脈硬化の進展に関連する因子と予防策」2020年12月.

○五嶋裕子

【著書】

- ・対馬栄輝, 石田水里, 國澤洋介, 五嶋裕子, 高倉保幸, 日高正巳. 医療統計解析 使いこなし実践ガイド, 五嶋担当部分: 96-108, 146-159, 羊土社, 2020. 5.

【社会貢献活動】

- ・第1回 データサイエンスFD研修会 講師. 2020. 10.
- ・日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会2020(合同開催: 理学療法管理部門研究会) 論文・学会演題等の査読. 2020. 11.
- ・リハビリテーションリサーチメソッド研究会 理事

○杉山真理

【学会発表】

- ・令和2年度 全国障害者スポーツ大会 障害区分判定研修会 講師
- ・日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会2020 第9回日本支援工学理学療法学会学術大会 教育講演 講師
- ・日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会2020 第7回日本地域理学療法学会学術大会 ポスター発表 座長

【社会活動】

- ・公益社団法人 日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会 運営幹事
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会 講義資料検証小委員会 委員

- ・公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 技術委員会委員
- ・令和2年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業
「車椅子における座位保持等と身体拘束との関係についての調査研究事業」委員会 委員
- ・埼玉県産業技術総合センター 客員研究員
- ・令和2年度「障害者スポーツ次世代ホープ発掘事業」専門相談員
- ・特定非営利活動法人 日本シーティング・コンサルタント協会 理事
- ・一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 クラス分け委員会 委員
- ・2020年度J-STARプロジェクト 委員

○武井圭一

【学会発表】

- ・米澤美園, 大塚幸永, 中田代助, 武井圭一, 菊地みほ, 陶山哲夫. 運動器疾患にてリハビリテーション介入を実施した85歳以上高齢者における入院時実態調査と自宅退院に関わる要因. 第7回日本地域理学療法学会学術大会. 2020年11月.
- ・武井圭一, 森田新平, 渡邊佳誠, 稲生実枝, 米澤美園. 回復期リハビリテーション病棟入院中の後期高齢運動器疾患患者のADLに対する認知機能の影響. 第20回日本ヒューマンケア・ネットワーク学会学術集会. 2020年12月.
- ・米澤美園, 大塚幸永, 中田代助, 熊本圭吾, 菊地みほ, 武井圭一, 陶山哲夫. 85歳以上の入院患者における自宅退院に関与する要因と活動・参加に対する取り組み. 2020年12月.

【社会貢献活動】

- ・日本理学療法士学会 ガイドライン・用語策定委員会 膝関節, 手関節・手指作成班班員
- ・東京都理学療法士協会 卒前教育検討委員会 委員
- ・学校法人敬心学園 敬心・研究ジャーナル 査読委員
- ・埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科 非常

勤講師(理学療法学総合演習)

- ・国立障害者リハビリテーションセンター学院リハビリテーション体育学科 非常勤講師(整形外科学, 老年医学)

○富田義人

【論文】

- ・Tomita, Y. K. Arima, S. Mizukami, R. Tsujimoto, S. Kawashiri, T. Nishimura, T. Okabe, N. Tanaka, Y. Honda, K. Nakahara, N. Yamamoto, I. Ohmachi, H. Goto, M. Hasegawa, Y. Sou, I. Horiguchi, M. Kanagae, Y. Abe, F. Nonaka, M. Tamai, H. Yamanashi, Y. Nagata, A. Kawakami, T. Maeda and K. Aoyagi (2020). "Association between self-reported walking speed and calcaneal stiffness index in postmenopausal Japanese women." BMC Geriatr 20.
- ・Tanaka, N. K. Arima, T. Nishimura, Y. Tomita, S. Mizukami, T. Okabe, Y. Abe, S. Kawashiri, M. Uchiyama, Y. Honda, R. Tsujimoto, M. Kanagae, M. Osaki and K. Aoyagi (2020). "Vitamin K deficiency, evaluated with higher serum ucOC, was correlated with poor bone status in women." J Physiol Anthropol 39.
- ・Arima, K., S. Mizukami, T. Nishimura, Y. Tomita, H. Nakashima, Y. Abe and K. Aoyagi (2020). "Epidemiology of the association between serum 25-hydroxyvitamin D levels and musculoskeletal conditions among elderly individuals : a literature review." J Physiol Anthropol 39.

【学会発表】

- ・富田義人, 有馬和彦, 西村貴孝, 水上 諭, 金ヶ江光生, 安部恵代, 青柳 潔. 運動器疾患を有する高齢者のサルコペニアと呼吸機能との関連, 第81回日本生理人類学会, 長崎, 選考・有, 一般講演.
- ・Xiao Xu, Kazuhiko Arima, Hiroki Nakashima, Ayano Kit, Takuhiro Okabe, Yoshihito Tomita, Satoshi Mizukami, Mitsuo Kanagae,

Takayuki Nishimura, Yasuyo Abe, Hisashi Goto, Maiko Hasegawa, Youko Sou, Kiyoshi Aoyagi. Association of FTO genotype with obesity and bone health, 第79回日本公衆衛生学会, 京都, 選考・有, ポスター

- ・キット彩乃, 有馬和彦, 水上 諭, 富田義人, 西村貴孝, 安部恵代, 青柳 潔. 1歳6か月児を育てる母親におけるソーシャルサポートに焦点を当てた分析, 第79回日本公衆衛生学会, 京都, 選考・有, ポスター.

【社会貢献活動】

- ・日本生理人類学会 代議員

○森本晃司

【地域貢献】

流通経済大学ラグビー部メディカルアドバイザー

○有蘭暢子

【論文】

- ・有蘭暢子. 「新型コロナウイルス禍における聴覚障害者の現状」. 日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌, VOL18 No.1, 2020, 114-118.

【社会貢献活動】

- ・特定非営利活動法人中野区聴覚障害者情報活動センター理事
- ・特定非営利活動法人かるがもの会(聴覚障害者ヘルパーの会) 監事
- ・中野区手話講習会講師
- ・手話通訳活動 60件

○有本邦洋

【論文】

- ・有本邦洋, 下重里江, 黒澤美枝子. 局所冷浸水並びに対照浸水時の血圧におよぼす背部触刺激の影響. 自律神経 2020 ; 57 (3) : 184-191.

【学会発表】

- ・有本邦洋, 重國宏次, 阿部 靖. 起業している理学療法士の実態—起業に至る経緯の事例報告—. 第20回日本ヒューマンケア・ネットワーク学

会学術集会. 抄録21頁. WEB開催. 2020年12月.

○重國宏次

【論文】

- ・重國宏次 他. 専門学校における中退率軽減に向けた過去のデータ分析. 重國宏次 他. 日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌 vol 18 No.1 2020 95-99.

【学会発表】

- ・重國宏次, 有本邦洋. コロナ禍における本学学生への加速度計を用いた身体活動量調査. 第20回 日本ヒューマンケア・ネットワーク学会学術集会.

【社会貢献活動】

- ・墨田区地域リハビリテーション活動支援事業
- ・国立障害者リハビリテーションセンター学院リハビリテーション体育学科 非常勤講師(老年医学)

**VI. 学科会議事録(サイボウズOffice会議
議事録に収載)**

1. 第1回理学療法学科会議(2020/05/01開催)
2. 第2回理学療法学科会議(2020/05/15開催)
3. 第3回理学療法学科会議(2020/05/25開催)
4. 第4回理学療法学科会議(2020/06/08開催)
5. 第5回理学療法学科会議(2020/06/22開催)
6. 第6回理学療法学科会議(2020/07/13開催)
7. 第7回理学療法学科会議(2020/07/27開催)
8. 第8回理学療法学科会議(2020/08/17開催)
9. 第9回理学療法学科会議(2020/08/24開催)
10. 第10回理学療法学科会議(2020/09/14開催)
11. 第11回理学療法学科会議(2020/09/28開催)
12. 第12回理学療法学科会議(2020/10/12開催)
13. 第13回理学療法学科会議(2020/10/26開催)
14. 第14回理学療法学科会議(2020/11/09開催)
15. 第15回理学療法学科会議(2020/11/30開催)
16. 第16回理学療法学科会議(2020/12/14開催)
17. 第17回理学療法学科会議(2021/01/18開催)

18. 第18回理学療法学科会議(2021/02/08開催)
 19. 第19回理学療法学科会議(2021/02/22開催)

Ⅶ. 理学療法学科のポリシー

【アドミッション・ポリシー ～学生受入れの方針～】

- 1) 理学療法士として、身体に障害があり社会的な諸問題に直面している人々を援助する意欲のある人
- 2) 理学療法士として、多様な人々の価値観を認め受入れながら、主体的に考え、実践する意欲のある人
- 3) 共生社会の実現を意識し、理学療法の専門職として多面的な視点で諸問題を解決する意欲のある人
- 4) 理学療法士として、多様な人々とコミュニケーションを図り、協調性を持って行動する意欲のある人
- 5) 理学療法を学ぶための基礎的な学力を有している人

【ディプロマ・ポリシー ～卒業認定・学位授与の方針～】

■保健医療分野の専門性

理学療法に関わる専門的な知識や技術を修得し、様々な疾患や障害により理学療法を必要とする対象者に対し、適切で専門的な理学療法を行い、社会適応するための支援ができる。

■共生社会の理解

理学療法の専門職としての役割に加え、共生社会の理念を実践する理学療法士としての自覚を持ち、組織や地域社会に貢献することができる。

■課題解決力

身体運動に関する医療専門職である理学療法士として、対象者の立場や背景、ニーズ等を把握した上で、適切に病態や障害を評価し、運動機能の回復・維持等に対する課題解決に取り組むことができる。

■応用力

理学療法の専門性である身体運動分野等に隣接する他分野へ視野を広げ、対象者のQOL維持・向上や健康寿命の延伸に向けた理学療法への応用・展開に取り組むことができる。

■組織における経営・マネジメント力

保健医療経営や理学療法に取り組む組織・人材マネジメント等に関する基礎知識を身につけ、保健医療経営やマネジメント等の課題に幅広く対応できる。

【カリキュラム・ポリシー ～教育課程編成・実施の方針～】

■基礎科目

理学療法士として活躍するための知識や教養を涵養する科目を配置する。共生社会、QOLの維持・向上についての基本を学ぶ。その上で、理学療法を学ぶための基礎的な能力を高める科目、社会人・職業人としての基本的な能力を養う科目を配置する。

■職業専門科目

高度化かつ多様化する保健医療分野において、基本的な医学的知識を身につけた上に、理学療法に関する専門性を多面的な観点から学ぶ。加えて、より質の高い理学療法を提供するため、保健医療に関する制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うと共に、科学的な根拠に基づき、より安全かつ効果的な理学療法を提供できる能力を育成するための理学療法専門科目を体系的に配置する。

■展開科目

理学療法の専門的な知識や技術に加え、展開力を有した理学療法の実務リーダーとして活躍するために、「理学療法に隣接する他分野(隣接他分野)」「組織の経営・マネジメント(経営分野)」及び「統合分野」に関する科目を配置する。隣接他分野では、「共生福祉論」を学んだ上で、「身体障害への支援システム工学」など理学療法と融合することで活躍の場を広げる科目を配置し、QOLの維持・向上や健康寿命の延伸への考えを深め、

複眼的な視点や新たな発想力を養う。経営分野では、基本的な経営・マネジメントを学ぶ科目と、保健医療に関する経営・マネジメントを学ぶ科目を配置し、所属する組織における諸課題の改善に必要な能力を育成する。統合分野では、隣接他分野と経営分野の学修を統合し、共生社会の実現に貢献しうる役割やサービスを考えることができる能力を育成する。

■ 総合科目

これまでに修得した理学療法の知識と技術を統合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的とする。3年次以降、実験・調査とその解析等の一連の研究課程を体験し、課題解決力・応用力を身につける。

(文責 田畑 稔)

リハビリテーション学部 作業療法学科 2020年度活動報告

I. 作業療法学科の特色と養成人材像

作業療法学科は、保健医療分野における生活支援を行う医療専門職である作業療法士としての高い専門的知識と技術を備えることで日常生活や社会生活に必要な能力の維持・回復のため、身体に障害のある者に応用的動作能力を、又は精神に障害のある者に社会的適応能力を獲得させ、多様な生活者の健康寿命の延伸等を含めた生活の質(QOL)の向上に貢献できる人材を育成する。さらに、生活支援分野等に隣接する他分野や組織の経営・マネジメントの知識を身につけ、共生社会の実現と発展に貢献する実務リーダーとなる作業療法士を育成する。

山田 孝 : 教授
猪股英輔 : 准教授
小野寺哲夫 : 准教授
菊地みほ : 准教授
近野智子 : 准教授(副学科長)
坂本俊夫 : 准教授
里村恵子 : 准教授
秋元美穂 : 講師
井口佳晴 : 講師
齋藤久恵 : 講師(1学年担任)
平野夏子 : 講師
井川大樹 : 助教
佐藤淳矢 : 助教
畠山久司 : 助教(1学年副担任)

II. 作業療法学科専任教員

本学では理論と実践を架橋する教育課程の提供に必要な研究者教員と実務家教員を配置し、アカデミックな学びに加え、実践的な学びを主導できる体制を整えた。また、保健医療分野に限定せず、様々な分野で実務家として活躍してきた講師陣を配置している。2020年度、作業療法学科は合計21名の専任教員が所属し、内訳は職業専門科目担当教員16名(そのうち作業療法士有資格者は13名)であり、展開科目担当教員は5名であった。

(以下職位別 五十音順)

片岡幸彦 : 教授
草野修輔 : 教授(副学科長)
佐々木清子 : 教授
佐々木博之 : 教授
佐藤 章 : 教授(学部長兼学科長)
宮田雅之 : 教授
柳澤孝主 : 教授

III. 活動内容

2020年度は、作業療法学科1期生として19名が入学した。年度始めより、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、一斉休講や一部のカリキュラム及び授業形態の変更、臨地実務実習の時期や実施形態の変更などを余儀なくされたが、学生及び教職員の安全の確保と教育の質の担保の両立に向けて、大学内での勤務及び在宅勤務形態を取りながら教育活動を行った。

1. 授業について

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、4月2日の入学式及び新入生ガイダンスが中止となり、当面の間授業が一斉休講となった。5月25日付で関東地区において緊急事態宣言が解除されたが、学生の安全を優先するため、遠隔授業を5月11日より7月末まで実施した。感染予防の観点から前期の開講を予定していた演習科目は後期に開講するなど、いくつかの科目に

ついて実施時期の調整を行った。学生の安全確保のために4月から大学キャンパスの立ち入りを禁止していたが、6月22日より感染予防対策を徹底した上で、大学キャンパス内での自主学習の場の提供とパソコンの貸与を開始した。8月1日より大学キャンパスでの対面授業が開始され、同日入学セレモニー及び学生オリエンテーションと感染予防講習会を実施した。8月以降は週3日間の対面授業と週2日の遠隔授業を併用した授業形態となった。対面授業では、大学の感染予防マニュアルに則り、演習授業においてはアクリル板を使用しているグループ討論や、身体接触を伴う実技・実習の授業においては感染予防対応の徹底を図りながら授業を行った。

2. 学生指導・サポート体制について

入学直後から一斉休講が続いたため、学生の学修への動機付けとユニバーサルパスポートの利用や履修登録等の大学のシステムへの適応を支援することを目的に、以下の内容を実施した。

- ① リハビリテーション及び各学科の専門的な内容をテーマとして教員によるオンラインミニ講義を実施した。
- ② 7月末までの間、教員が学修アドバイザーとして2～3名の学生を担当し、履修登録のアドバイスやPT学科合同のオンラインホームルームの開催、欠席や体調不良の連絡・報告の対応を行った。
- ③ 8月以降、対面授業が開始されてからは、担任と副担任が学生面談や欠席や体調不良時の連絡・報告に対応し学生への個別指導を行った。
- ④ 11月21日、12月5日学修方法に不安を持つ学生に対して、片岡幸彦と小野寺哲夫による『学習法セミナー』が開催された。

3. 臨地実務実習について

① 体験実習の日程及び実施形態の変更

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初予定していた臨地実務実習指導者会議が中止と

なり、5月～6月の体験実習Ⅰ及び9月の体験実習Ⅱの実施時期が延長されることとなった。2021年2月と3月の学外実習の実施に向けて、実習施設への実習受入れ依頼を行い12月末までに学生配置を行った。また、同時に臨地実務実習科目担当教員によるワーキンググループを編成し、学外実習の実施と学外実習が困難な場合の代替としての学内演習のいずれにも対応できるよう、準備を進めた。年末からの新型コロナウイルス感染再拡大により2021年1月8日付で緊急事態宣言が発令された。大学の方針として学外実習を取りやめ学内実習に切り替えることとなり、体験実習Ⅰを2月15日～2月20日、体験実習Ⅱを3月1日～3月6日の期間、学内実習の形態で実施することとなった。

② 臨地実務実習に際しての感染症ワクチン接種

2020年10月15日、臨地実務実習において実習生に推奨される感染症ワクチン接種に関するオリエンテーションを実施した。

③ 臨地実務実習指導者会議のリモート開催の中止

2020年の冬からの新型コロナウイルス感染再拡大の状況において、臨地実務実習指導者会議をリモート開催することとし、1月12日～15日の間オンデマンド方式で行う予定であったが、学外実習を学内演習に切り替えたため、臨地実務実習指導者会議のリモート開催についても中止した。

④ 体験実習Ⅰ(学内演習)

臨地実務実習全般に関するオリエンテーションを2020年12月19日(土)に実施した。その後、2021年1月16日(土)体験実習の学内演習に向けて草野副学長による感染予防講習会を実施した。体験実習Ⅰのオリエンテーションは当初の予定より遅れたが、2月3日(水)に実施した。学内演習を2月15日(月)～20日(土)に実施した。1日目はオリエンテーションと多職種連携の講義、2日目は発達障害領域の作業療法の講義と演習、3日目は精神障害領域の作業療法の講義と演習、4日目は高齢期障害領域の作業療法の講義と演習、5日目は身体障害領域の作業療法の講義と

演習, 6日目は午前中記録と体験実習報告会の準備を行い, 午後は報告会を実施した. 各実習日の学生指導は, 専門領域の専任教育が担当し, 最後の実習報告会での発表は, 有資格者の教員と基礎・展開科目担当教員が聞き, 評価を行った.

⑤ 体験実習Ⅱ (学内演習)

体験実習Ⅱのオリエンテーションを2月6日(土)の午後行った. 体験実習Ⅱの学外実習の代替実習としての学内演習は3月1日(月)から3月6日(土)に実施した. 1日目は身体障害領域の作業療法の講義と演習, 2日目は発達障害領域の講義と演習, 3日目は精神障害領域の講義と演習, 4日目は高齢期障害の講義と演習, 5日目は展開科目の教員による多職種連携の講義を行った. 6日目の午前中は記録と体験実習Ⅱ報告会の準備を行い, 午後は報告会を実施した. 各実習日の学生指導は, 専門領域の専任教員が担当し, 最後の報告会での発表内容は作業療法士有資格者の教員と基礎・展開科目の教員が参加した. 体験実習Ⅰ及び体験実習Ⅱの評価判定は2021年3月15日に開催された成績評価判定会議にて作業療法学科全教員により成績評価を行った.

4. 広報及び募集活動について

教員は大学で開催するオープンキャンパス及び大学説明会に参加し来校者への対応や学科説明, 体験授業を行った. 作業療法オンライン模擬講義シリーズとして, 学科教員が作業療法に関する講義を担当した. また, 担当教員が高校訪問を行い, 高校教諭に対して作業療法や学科の説明等を行った.

5. 学術交流

2021年2月27日, 第1回東京保健医療専門職大学学術大会が開催され, 作業療法学科専任教員として佐藤章, 柳澤孝主, 片岡幸彦, 菊地みほ, 近野智子が学術講演を行った.

6. 2021年度入学予定者対象の入学前イベント

2021年3月16日, 次年度入学予定者に対して

『新入生交流会』を実施した. 2021年3月29日, 30日, 31日の3日間, 入学予定者を対象とした『入学前教育プログラム』にて, 学修意欲の向上を図り, 入学後に学修する科目の助走と作業療法に関する理解を深めることを目的とし, 身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害の4つの障害領域を専門とする教員が各々講義を行った.

Ⅳ. 教員の研究業績・社会貢献活動

片岡幸彦:

【著書】

- 1) (共著) 株式会社日本総合研究所 人事組織・ダイバーシティ戦略グループ編
「人事・組織マネジメントの処方箋—33のケースで読み解く課題解決の視点—」
労務行政研究所 発行 2020年11月12日

【地域・社会貢献】

(研修会等講師等)

- 1) 事業構想大学院大学 東京校・大阪校客員教授 「組織と人材」科目担当
2020年4月1日～12月31日
- 2) 中小企業大学校 三条校・東京校・仙台校 講師
「人が育つ!業績が向上する人事制度のつくり方」
2020年8月3日～10月14日
- 3) 中小企業基盤整備機構 WEB校 講師
「人材育成につなげる人事制度運用」
2020年11月11日～12月2日
- 4) 出版社 人事制度改革コンサルティング
2020年4月1日～12月31日
- 5) 建設会社 幹部登用人材アセスメント
2020年11月18日～12月22日

草野修輔:

【著書】

- 1) 草野修輔・他:2020年版 障害者職業生活相談員資格認定講習テキスト 第3章・第4節 内部障害者. 独立法人 高齢・障害・求職者

用支援機構 編, 139-141, 142-144, 2020

【論文】

- 1) 草野修輔：東京2020パラリンピックを迎えて—障がい者スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動—。The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 57：497-500, 2020
- 2) 阿部 靖, 草野修輔：コーチング。日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌, 18：111-113, 2020
- 3) 川村なごみ, 草野修輔 他：柳原40点法による顔面神経麻痺評価の検者間信頼性の検討。日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌, 18：50-58, 2020
- 4) 長嶋早紀, 高橋 郁, 安西恵理, 楠 美結, 安藤奈穂, 田代春菜, 清水隆行, 山口智子, 出浦健太郎, 西村晃典, 石川弘明, 木村郁夫, 草野修輔：各種認知機能スクリーニング検査法を用いた認知症判別におけるロジスティック回帰分析。日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌, 18：31-40, 2020
- 5) 安藤奈穂, 高橋 郁, 安西恵理, 楠 美結, 長嶋早紀, 田代春菜, 清水隆行, 山口智子, 出浦健太郎, 西村晃典, 石川弘明, 木村郁夫, 草野修輔：認知機能評価法 [Japanese version of Montreal Cognitive Assessment (MoCA-J)] における新たなカットオフ値の検討。日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌, 18：41-49, 2020
- 6) 草野修輔：特集 パラスポーツ・メディシン 入門パラアスリートにおけるドーピングの特殊性。臨整外, 56：61-64, 2021

【地域・社会貢献】

(団体等役員等)

- 1) 2020年7月18日：日本障がい者スポーツ協会・医学委員会会議出席(医学委員会副委員長 アンチ・ドーピング部会長)
- 2) 2020年11月2日：第33回社会福祉士, 介護福祉士及び第23回精神保健福祉士国家試験に係る特別措置審査委員会出席(特別措置審査委員)

- 3) 2020年11月21日：障がい者スポーツトレーナースキルアップ研修会講師[新型コロナウイルス感染症予防対応について(医学委員会副委員長, アンチ・ドーピング部会長)]
- 4) 2020年11月29日：日本障がい者スポーツ協会・チームドクター連絡会議出席(医学委員会副委員長, アンチ・ドーピング部会長)
- 5) 2020年12月5日：日本障がい者スポーツ協会競技団体内アンチ・ドーピング担当者連絡会議出席(医学委員会副委員長, アンチ・ドーピング部会長)
- 6) 2020年1月13日：日本障がい者スポーツ協会競技団体トレーナー会議講師[新型コロナウイルス感染症予防対応について(医学委員会副委員長, アンチ・ドーピング部会長)]
- 7) 2021年1月22日：日本障がい者スポーツ協会アンチ・ドーピング部会会議出席(医学委員会副委員長, アンチ・ドーピング部会長)

佐々木清子：

【著書】

- 1) 飯野順子編 佐々木清子他著：「重症心身障碍児の新たな療育活動を求めて, 感覚に働きかける活動の工夫～思い障害のある人たちに活用できる感覚統合的な視点～」令和2年7月15日 ジアース教育新社
- 2) 肢体不自由児協会編, 北住英二, 佐々木清子他著「手足の不自由な子どもたち 特集排泄・トイレ脳性まひ児や重症心身障害児への排泄介助のポイント」令和2年6月10日 肢体不自由児協会

【地域・社会貢献】

(研修会講師等)

- 1) 国家試験模擬試験の問題作成 (令和2年4月～現在)
- 2) 「すぎのき生活園 感覚活動」講師 (令和2年6月から全6回実施)
- 3) 新潟リハビリテーション大学 非常勤講師 「発達障害治療学」 令和2年7月4日
- 4) 大泉東さくら学級(特別支援学級)研修会講

師

令和2年6月26日, 令和2年7月10日

- 5) 練馬区北町小学校 特別支援学級「すまいる」
研修会講師 令和2年7月17日
- 6) 中央区子ども発達支援センターゆりのき「医
療的ケア研修講座」研修会講師
(東京都特別支援課主催) 令和2年7月29日
- 7) 臨床塾講師(東京リハビリテーション)
令和2年8月6日から8回
- 8) 小平市教育委員会 指導課教育相談員
令和2年9月より3回実施した。
- 9) 杉並区高井戸小学校難聴・言語通級指導学級
(けやき学級) 令和2年9月2日
- 10) 船橋区子ども発達相談センター研修会講師
令和2年9月18日
- 11) 中野区ゆめなりあ研修会講師 令和2年9月
- 12) 町田小山中央小学校特別支援教室研修会講師
令和2年10月7日
- 13) 「肢体不自由児への摂食指導」研修会講師
令和2年10月30日 浦和市子ども発達セン
ターおよび教育研究センター主催
- 14) 公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会
「令和2年度 重症心身障害児施設職員研修
会 保育士, 児童指導員等(療育職員)コー
ス(Web研修会)」講師 令和2年12月10日
- 15) 東京都保育士キャリアアップ研修会講師
令和2年12月11日
- 16) 小金井市立南小学校「特別支援学級くじらも
ぐ教室」研修会講師 令和2年12月16日
(団体等役員等)
- 1) 社会福祉法人武蔵野緑会 西久保保育園評議
員
(平成10年4月より現在に至る)
- 2) 日本統合学会インストラクター
(平成15年4月より現在に至る)
- 3) 日本作業療法学会専門作業療法士(摂食嚥下)
ワーキンググループ構成員
(平成26年4月より現在に至る)
- 4) JDDnet代議員(一般社団法人日本発達障害
ネットワーク(令和元年4月より現在に至る)

5) 日本統合学会代議員

(令和2年4月より現在に至る)

6) 日本作業療法学会査読委員

(令和2年4月より現在に至る)

7) 日本作業療法教育学会選挙管理運営委員会

(令和2年11月より現在に至る)

柳澤孝主:

【著書】

- 1) 共著 宮本和彦(編)『変動する社会と生活』
第1章「人間の社会性」(1-18), 第9章「社会福
祉と生活」(125-140) 八千代出版, 2020年4月
3日刊

【地域・社会貢献】

(団体等役員等)

- 1) 福祉臨床シリーズ(弘文堂)編集委員会委員
(平成17年6月1日~現在)
(令和3年4月からの社会福祉士・精神保健福
祉士新カリキュラム対応のテキストシリーズ
の企画・編集等)
- 2) 日本教育福祉学会理事(平成26年3月~現在)

山田 孝:

【著書】

- 1) 山田 孝, 小林法一:「興味チェックリスト使
用者用手引書」 令和2年9月1日
一般社団法人日本人間作業モデル研究所
- 2) 山田 孝, 竹原 敦, 石井良和:「役割チェッ
クリスト使用者用手引書」 令和2年9月1日
一般社団法人日本人間作業モデル研究所

【論文】

- 1) 山田 孝, 小林法一, 篠原和也, 會田玉美:「回
復期リハビリテーション病棟入院患者の日常
生活活動に対する 作業療法の効果に関する
文献検討」 令和2年4月 作業行動研究23
(3-4) 92-99
- 2) 渡部雄太, 井口知也, 山田 孝:「慢性疼痛を
持つ認知症者の生活への動機づけに着目した
事例~人間作業モデルと認知神経リハビリ
テーションモデルを用いた作業療法~」

- 令和2年4月 作業行動研究 23 (3-4) 100-108
- 2) 新川正二, 岩瀬義昭, 山田 孝:「人間作業モデルリーズニングに着目することで自己の肯定的な解釈により行動変容した事例」 令和2年4月
作業行動研究 23 (3-4) 109-115
- 4) 永井貴士, 石井良和, 古松山建吾, 浅野莉沙, 山田 孝:「家族介護者の作業適応質問紙の開発—内容的妥当性の検討—」 令和2年6月
作業行動研究 24 (1), 20-28
- 5) 建石光貴, 坂田崇好, 山田 孝:「生きる希望を失ったクライアントへの作業に焦点を当てた介入—作業に関する自己評価と再動機づけ過程を用いた関わり—」 令和2年9月 作業行動研究 24 (2) 70-78
- 6) 「予南 裕二, 平松恭介, 小林 剛, 山田 孝:「防的・健康増進作業療法プログラム(65歳大学)参加者の意識の変化のプロセス」 令和2年12月 作業行動研究 24 (3), 93-100
- 7) 小池真由美, 山田 孝:「意味のある生活行為を支援する作業療法士の思考過程」 令和2年12月 作業行動研究 24 (3), 101-109
- 8) 春口麻衣, 山田 孝:「作業従事の支援によって「生きてみようと思う」と語るようになった事例」 令和2年12月 作業行動研究 24 (3), 110-117
- 9) 篠原千春, 篠原和也, 山田 孝:「「明らかにすること. 地域生活, 可能性, レジリエンス(回復力). 高齢者のためのマニュアル」を用いた意味のある作業の影響—介護老人保健施設に入所中の高齢女性の事例を通じて—」 令和2年12月 作業行動研究 24 (3), 127-137

【学会発表】

- 1) 渡部雄太, 日高茉実, 井口知也, 山田 孝:「軽度認知障害者と認知症高齢者の作業参加の特徴」 令和2年9月 第54回日本作業療法学会
- 2) 南 裕二, 平松恭介, 山田 孝:「回復期リハビリテーション病棟患者における作業適応とヘルスリテラシーの関連性」 令和2年9月 第54回日本作業療法学会
- 3) 岩井英泰, 山田 孝:「回復期リハビリテーション病棟入院中の認知症高齢患者への人間作業モデルを用いた関わり」 令和2年9月 第54回日本作業療法学会
- 4) 青山克実, 安部剛敏, 老川良輔, 山田 孝:「作業に焦点をあてた作業療法実践自己効力感尺度」の開発—内容妥当性の検討—」 令和2年9月 第54回日本作業療法学会
- 【地域・社会貢献】**
(研修会等講師)
- 1) 「人間作業モデル講習会」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年5月16-17日, 令和2年8月22-23日, 令和2年9月19-20日, 令和2年11月14-15日, 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催
- 2) 「人間作業モデル評価法の実際の講習会」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年6月13-14日, 令和2年12月12-13日 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催
- 3) 「人間作業モデル1日講習会・基礎・評価法編」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年6月27日, 令和2年10月24日, 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催
- 4) 「人間作業モデル認知症講習会」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年7月18-19日, 令和2年10月10-11日 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催
- 5) 「人間作業モデル1日講習会・治療編」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年8月2日, 令和2年12月26日, 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催
- 6) 「人間作業モデル精神科講習会」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年12月5-6日 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催
- 7) 「人間作業モデル事例検討会」講師 (Zoomによる遠隔地教育) 令和2年12月18日 一般社団法人日本人間作業モデル研究所・主催

猪股英輔：

【学会発表】

- 1) 猪股英輔, 須鎌康介, 小林法一:「子どもと高齢者の世代間交流における活動内容の調査—児童館職員へのフォーカスグループインタビュー」第54回日本作業療法学会(Web開催)2020年11月
- 2) 猪股英輔:閉じこもりから社会参加に踏み出した認知症高齢者に対する訪問リハビリテーション—生活行為向上マネジメントを用いて.第21回日本認知症ケア学会大会(Web開催)2020年11月

【調査報告】

- 1) 一般社団法人全国デイ・ケア協会:「活動・参加のための訪問リハビリテーションの実践マニュアル」令和元年度老人保健事業推進費等補助金「通所・訪問リハビリテーションの目的を踏まえた在り方に関する調査研究事業」報告書, 分担執筆, 2020年4月

【地域・社会貢献】

(研修会講師)

- 1) 東京都作業療法士会 北多摩ブロック主催「生活行為向上マネジメント事例検討会(Web研修)」講師, 2020年10月10日
- 2) 東京都立大学大学院人間健康科学研究科作業療法科学域, 非常勤講師, 2020年11月13, 15日(団体等役員等)
- 1) 一般社団法人東京都作業療法士会 学術誌「東京作業療法」論文査読委員(2014年6月より現在に至る)
- 2) 一般社団法人東京都作業療法士会 東京都作業療法学会 演題査読委員(2014年6月より現在に至る)
- 3) 一般社団法人東京都作業療法士会 地域包括ケア対策委員会 担当理事(2014年7月より現在に至る)
- 4) 一般社団法人日本作業療法士協会 学会演題査読委員(2014年12月より現在に至る)
- 5) 一般社団法人日本作業療法士協会 生活行為向

上マネジメント事例報告登録制度審査委員(2015年9月より現在に至る)

- 6) 社会福祉法人雲柱社 評議員(2017年6月より現在に至る)
- 7) 一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会 制度対策部員(2018年10月より現在に至る)
- 8) 一般社団法人日本作業療法士協会 学術誌「作業療法」論文査読委員(2019年6月より現在に至る)

小野寺哲夫：

【学会発表】

- 1) 「筋トレは最強のソリューションなのか?—筋トレ尺度の開発と5因子性格尺度との関連性について」日本心理学会第84回大会:東洋大学(オンライン開催)令和2年9月~11月
- 2) 「4種類の家族システムとソーシャルキャピタルとの関連について~家族システム=SALADモデルから家族満足度や心身の健康度を検討する」日本家族心理学会第37回大会:香川大学(オンライン開催)令和2年9月
- 3) 「家族システム=SALADモデルに関する臨床心理学的研究—4種類の家族システムとソーシャルキャピタルとの関連性について—」日本心理臨床学会第39回大会:横浜国立大学(Web大会)令和2年11月

【地域・社会貢献】

(研修会講師等)

- 1) 専門研修講座 特別支援教育の充実VI OJL研修 講師「特別支援学校におけるチーム力向上のための知識・理論チームづくりのヒント:OJL」令和2年10月1日(木) 場所:福島県特別支援教育センター(郡山市)
- 2) 三軒茶屋病院 教育研修「メンタルヘルス研修」講師 令和2年9月15(火)三軒茶屋病院
- 3) 三軒茶屋病院 教育研修「自己主張(アサーション)トレーニング研修」講師 令和2年11

月6日(金) 場所:三軒茶屋病院

菊地みほ:

【論文】

- 1) 菊地みほ:「地域共生社会」施策の課題(1)
日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌
Vol 18, No1, 127-129 (2020年9月30日)
- 2) 陶山哲夫, 菊地みほ, 藤原清香, 「東京2020パラリンピックを迎えて一障がい者スポーツのこれからと発展」 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine : Vol 57 : 486-491
(2020年6月18日)

【学会発表等】

- 1) 米澤美園, 菊地みほ, 大塚幸永, 中田代助, 熊本圭吾, 武井圭一, 「85歳以上の入院患者における自宅退院に關与する要因と活動・参加に対する取り組み」 2020年12月13日,
第20回日本ヒューマンケア・ネットワーク学会
- 2) 加藤範子, 成富健一, 山岸 太, 菊地みほ
「コロナ禍での訪問リハビリ病院でのクラスター発生からこれまでを振り返って」
2020年12月13日, 第20回日本ヒューマンケア・ネットワーク学会

【地域・社会貢献】

(団体等役員等)

- 1) 第20回日本ヒューマン・ケアネットワーク学会・副大会長 2020年12月13日
- 2) 第20回日本ヒューマン・ケアネットワーク学会
シンポジウム「多職種連携の実際～地域ケア会議から多職種連携教まで～」座長
2020年12月13日
- 3) 『リハビリテーション』(鉄道身障者福祉協会)編集委員 (2019年12月より現在に至る)

近野智子:

【地域・社会貢献】

(研修会講師等)

- 1) 「東京都作業療法士会 令和2年度 臨床実習

指導者講習会」講師

令和2年7月, 令和2年11月

(団体等役員等)

- 1) 日本作業療法士協会 学術部 部員(マニュアル編集担当)(平成27年4月～現在)
- 2) 日本作業療法士協会 事例登録審査員(A審査員)(平成29年8月～現在)
- 3) 東京都作業療法士会 東京都作業療法学会演題査読委員 (平成28年9月～現在)
- 4) 日本作業療法教育学会 副会長・事務局長
(平成30年10月～現在)

坂本俊夫:

【学会発表等】

- 1) 坂本 俊夫:「作業療法におけるスピリチュアルケアの要素について—スピリチュアル・クライシスの状態が推測された事例分析からの考察—」, 第17回 敬心学園職業教育研究集会(旧学術研究会), 2020年11月8日 Zoom開催。

【地域・社会貢献】

(団体等役員等)

- 1) 神奈川県作業療法士会学術誌編集委員
(平成19年7月より現在に至る)
- 2) 日本作業療法士協会機関誌編集協力者(第一査読)(平成29年4月より現在に至る)
- 3) 日本作業療法士協会事例報告登録制度審査委員(審査員A)(平成29年9月より現在に至る)
- 4) 日本作業療法学会 第5期演題審査委員
(平成30年1月より現在に至る)

里村恵子:

【学会発表等】

- 1) 第20回日本ヒューマンケア・ネットワーク学会 シンポジスト テーマ:「地域自立支援協議会における多職種連携」 2020年12月13日

【地域・社会貢献】

(団体等役員等)

- 1) 東京都江東区地域自立支援協議会 会長
(平成25年4月より現在に至る)

井口佳晴：

【地域・社会貢献】

(研修会等講師)

- 1) 「東京都作業療法士会 令和2年度 臨床実習指導者講習会」講師

テーマ：「臨床実習指導方法論」令和2年7月4日 場所：東京都立大学(オンライン開催)

斎藤久恵：

【地域・社会貢献】

(研修会講師等)

- 1) 「東京都作業療法士会 令和2年度臨床実習指導者講習会」講師, ファシリテーター

令和2年11月7日～8日 場所：帝京平成大学(リモート拠点)

令和2年12月12日～13日 場所：東京医療学院大学(リモート拠点)

平野夏子：

【地域・社会貢献】

(研修会講師等)

- 1) 「日本音楽心理学音楽療法懇話会 第351回講習会」講師 オンライン・ワークショップ「民族音楽学を音楽療法に活かす—民謡・わらべうたの使い方—」(2020年9月9日)

- 2) 「日本音楽療法学会認定音楽療法士必修講習会」講師(2020年4月～現在)

(団体等役員等)

- 1) 一般社団法人日本音楽療法学会 代議員(2007年4月～現在)
- 2) 一般社団法人日本音楽療法学会(補)受験資格基準検討委員(2018年10月～現在)
- 3) 一般社団法人日本音楽療法学会 必修講習会運営委員(2018年10月～現在)
- 4) 一般社団法人日本音楽療法学会 関東支部幹事(2008年4月～現在)
- 5) 一般社団法人日本音楽療法学会 関東支部研修講習委員(2013年10月～現在)
- 6) 一般社団法人日本音楽療法学会 第19回日本

音楽療法学会関東支部地方大会(埼玉)

実行委員長(2019年4月～現在)(コロナにより延期, 2021年11月実施予定)

- 7) 日本音楽心理学音楽療法懇話会 理事(2014年4月～現在)

井川大樹：

【賞罰】

- 1) 一般社団法人人工知能学会において「2019年度研究会優秀賞」受賞 令和2年6月

佐藤淳矢：

【地域・社会貢献】

(団体等の役員等)

- 1) 医療福祉系専門職養成教育の指導力スキルアップ研究会 理事(平成23年6月～現在に至る)

畠山久司：

【地域・社会貢献】

(研修会講師等)

- 1) 「株式会社LITALICO 保護者向け研修会」講師 主催株式会社LITALICO
第1回：テーマ「着替え動作の獲得に向けた支援」令和2年5月20日
第2回：テーマ「協調運動障害に対する支援」令和2年6月17日
第3回：テーマ「姿勢から紐解く子どもの理解」令和2年7月15日
第4回：テーマ「力加減の難しさに対する手立て」令和2年8月19日
第5回：テーマ「ボディイメージを育む遊びと生活の工夫」令和2年9月16日
第6回：テーマ「感覚特性の理解とその対応」令和2年10月21日
第7回：テーマ「不器用の原因と個別にマッチする手立てのヒント(学童期編)」令和2年11月18日
第8回：テーマ「不器用の原因と個別にマッチする手立てのヒント(幼児期編)」令

和2年12月16日

- 2) 「株式会社LITALICO セラピスト向けイベント」講師 テーマ:「強みを活かした園・学校と連携した働き方」 令和2年11月29日
主催:株式会社LITALICO
- 3) 「文京区教育センター 総合相談研修会」講師
テーマ「乳幼児の運動発達の見立てと関わり」
令和2年12月2日 主催:文京区教育センター
(団体等役員等)
- 1) 日本作業療法士協会 学術部(マニュアル編集班)(平成30年12月~現在)
- 2) 雑誌「小児リハビリテーション」編集委員
(平成31年4月~現在)
- 3) 東京都特別支援学校 外部専門家
(令和2年4月~現在)

V. 学科会議録

原則として月2回の頻度で、主にZoomによるオンライン会議にて合計18回作業療法学科会議を開催した。(議事録はサイボウズOffice学科会議議事録に収載)

- 第1回学科会議(2020年5月1日)
- 第2回学科会議(2020年5月25日)
- 第3回学科会議(2020年6月8日)
- 第4回学科会議(2020年6月22日)
- 第5回学科会議(2020年7月13日)
- 第6回学科会議(2020年7月27日)
- 第7回学科会議(2020年8月24日)
- 第8回学科会議(2020年9月14日)
- 第9回学科会議(2020年9月28日)
- 第10回学科会議(2020年10月12日)
- 第11回学科会議(2020年10月26日)
- 第12回学科会議(2020年11月9日)
- 第13回学科会議(2020年12月14日)
- 第14回学科会議(2021年1月18日)
- 第15回学科会議(2021年2月8日)
- 第16回学科会議(2021年2月22日)
- 第17回学科会議(2021年3月8日)
- 第18回学科会議(2021年3月22日)

VI. 作業療法学科のポリシー

【アドミッション・ポリシー ~学生受入れの方針~】

- 1) 作業療法士として、身体または精神に障害のある人々や社会的な諸問題に直面している人々を援助する意欲のある人
- 2) 作業療法士として、多様な価値観を尊重しながら、主体的に考え、自らの意思に基づいて実践する意欲のある人
- 3) 共生社会の実現を意識し、作業療法の知識・技術及び幅広い視点で諸問題を解決する能力を実践的に身に付ける意欲のある人
- 4) 作業療法士として、他者との協調性を持ち、連携・協働を行いながら、方向性を定めて、実践する意欲のある人
- 5) 作業療法を学ぶための基礎的な学力を有している人

【ディプロマ・ポリシー ~卒業認定・学位授与の方法~】

■保健医療分野の専門性

作業療法に関わり専門的な知識や技術を修得し、身体的及び精神的なリハビリテーションを必要とする対象者に、日常生活・社会生活を実現するための支援ができる。

■共生社会の理解

作業療法の専門職としての役割に加え、共生社会の理念を実践する作業療法士としての自覚を持ち、組織や地域社会に貢献することができる。

■課題解決力

生活支援を行う医療専門職である作業療法士として、適切な評価を通して、対象者が実現したい生活行為等を把握し、日常生活・社会生活に必要な能力の維持・回復等に関する課題解決に取り組むことができる。

■応用力

作業療法の専門性である生活支援分野等に隣接する他分野へ視野を広げ、対象者のQOL維持・向上や健康寿命の延伸に向けた作業療法の応用・

展開に取り組むことができる。

■組織における経営・マネジメント力

保健医療経営や作業療法に取り組む組織・人材マネジメント等に関する基礎知識を身に付け、保健医療経営やマネジメント等の課題に幅広く対応できる。

【カリキュラム・ポリシー ～教育課程編成・実施の方針～】

■基礎科目

作業療法士として活躍するための知識や教養を涵養する科目を配置する。他人を敬う心の大切さを踏まえ、敬心学園理念を理解し、QOLの維持・向上についての基本を学ぶ。その上で、作業療法を学ぶための基礎的な能力を高める科目に加え、責任感や使命感を持った職業人材を育成するために必要な科目を配置する。

■職業専門科目

作業療法士として必要なりハビリテーションに関する専門知識・技術を学修する科目を体系的に配置する。対象者を敬い、多職種や地域との連携や協働をしながら作業療法に取り組むことができる能力を養う教育を行う。

■展開科目

作業療法の専門的な知識や技術に加え、展開力を有した実務リーダーとして活躍するために、「作業療法に隣接する他分野（隣接他分野）」「組織の経営・マネジメント（経営分野）」及び「統合分野」に関する科目を配置する。隣接他分野では、「共生福祉論」を学んだ上で、「ユニバーサルツーリズムと外出支援」など作業療法と融合することで活躍の場を広げる科目を配置し、QOLの維持・向上や健康寿命の延伸への考えを深め、複眼的な視点や新たな発想力を養う。経営分野では、基本的な経営・マネジメントを学ぶ科目と、保健医療に関する経営・マネジメントを学ぶ韓国を配置し、所属する組織における諸問題の改善に必要な能力を育成する。統合分野では、隣接他分野と経営分野の学修を統合し、共生社会の実現に貢献しうる役割やサービスを考えることができる能力を育成する。

■総合科目

基礎科目、職業専門科目、展開科目で学修した知識・知術を統合し、実務リーダーとして活躍できる作業療法士の育成を図る科目を配置する。卒業研究を通じ科学的な思考過程を追求する姿勢を身に付ける。

(文責 佐藤 章・近野智子)